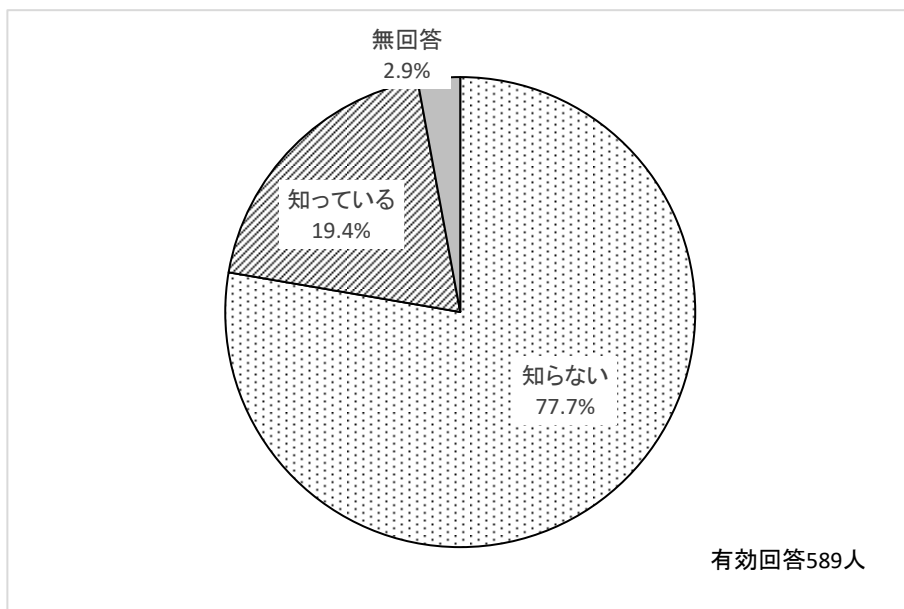


V 民生委員・児童委員向けアンケート調査の結果

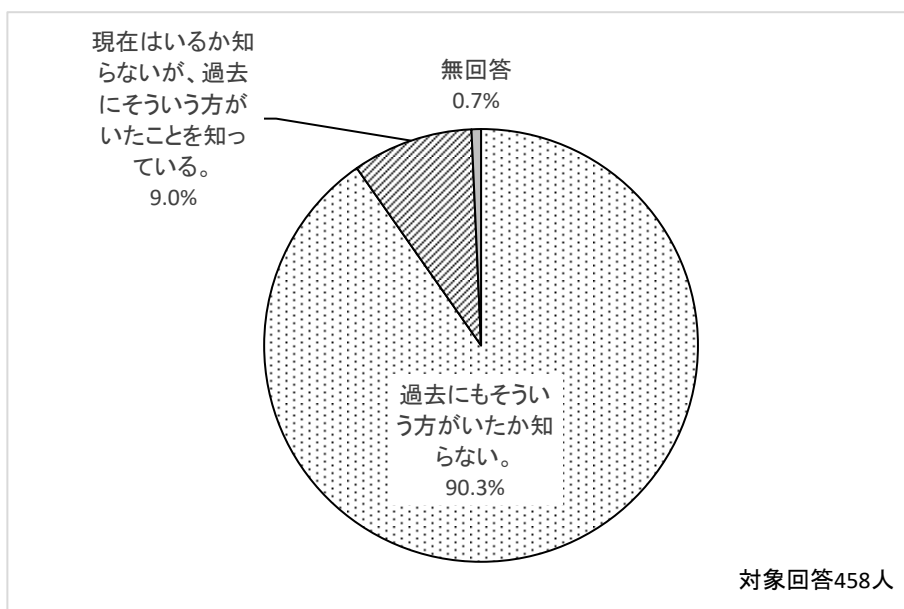
V 民生委員・児童委員向けアンケート調査の結果

(1) ひきこもり等の状態該当者について

問1 あなたが受け持っている地域に、ひきこもり等の状態にある方が現在おられるか知っていますか。



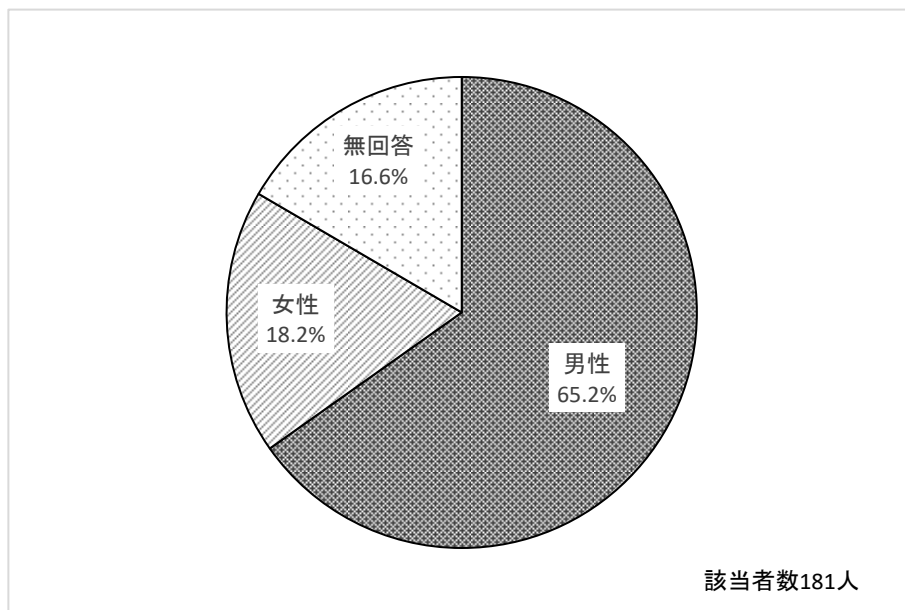
問2 問1で「知らない」とお答えの場合、過去の状況はいかがですか。



民生委員・児童委員がひきこもり等の状態にある人を知っていると答えたのは19.4%となった。現在は把握していないが過去にそういう方を知っているという方は9.0%となった。

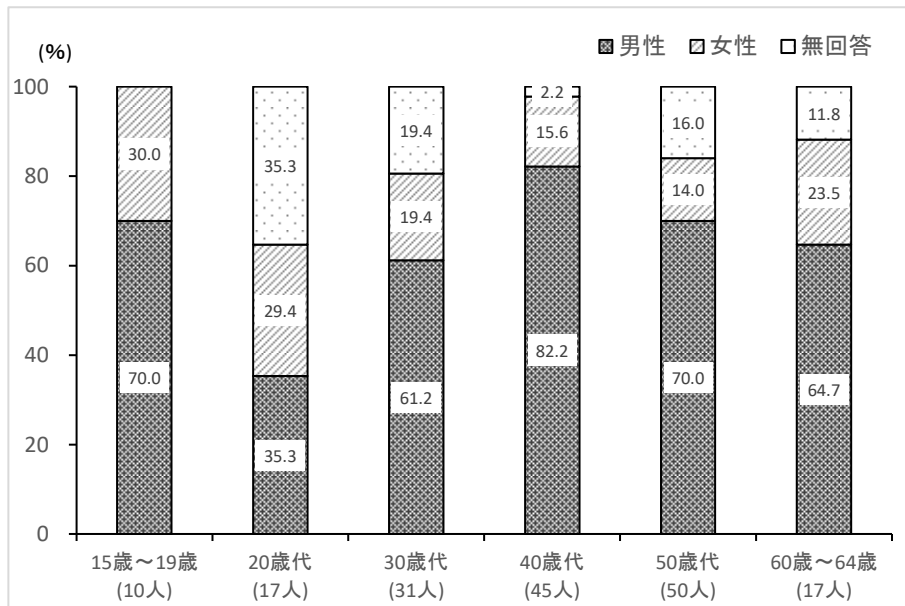
問3 問1で「知っている」とお答えの場合、その状況を教えてください。

1 該当する方の性別



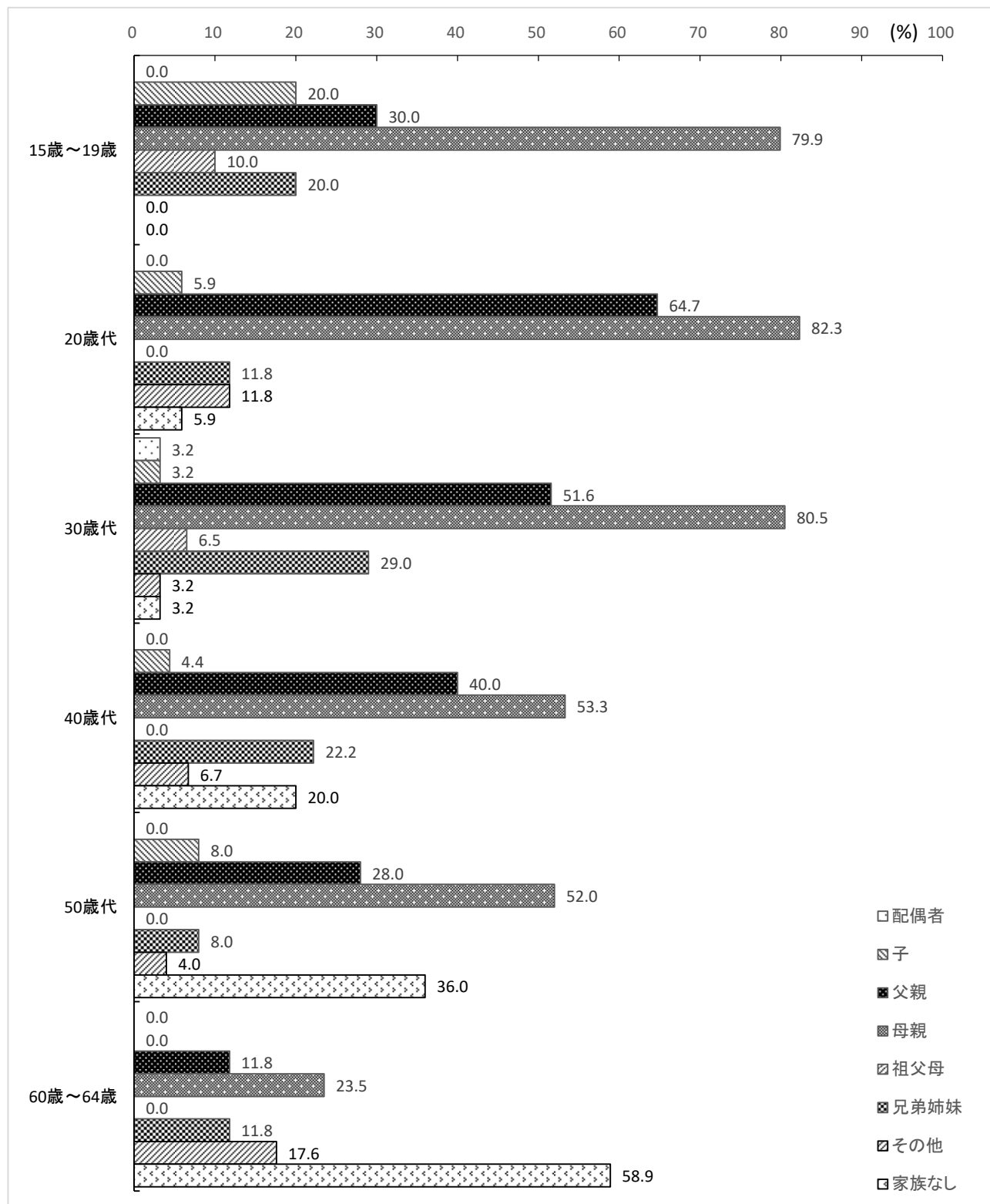
ひきこもり等の状態にある人を「知っている」と答えた人での男女比は、男性 65.2%、女性 18.2%と男性の比率の方が多くなった。

2 該当する方の年齢



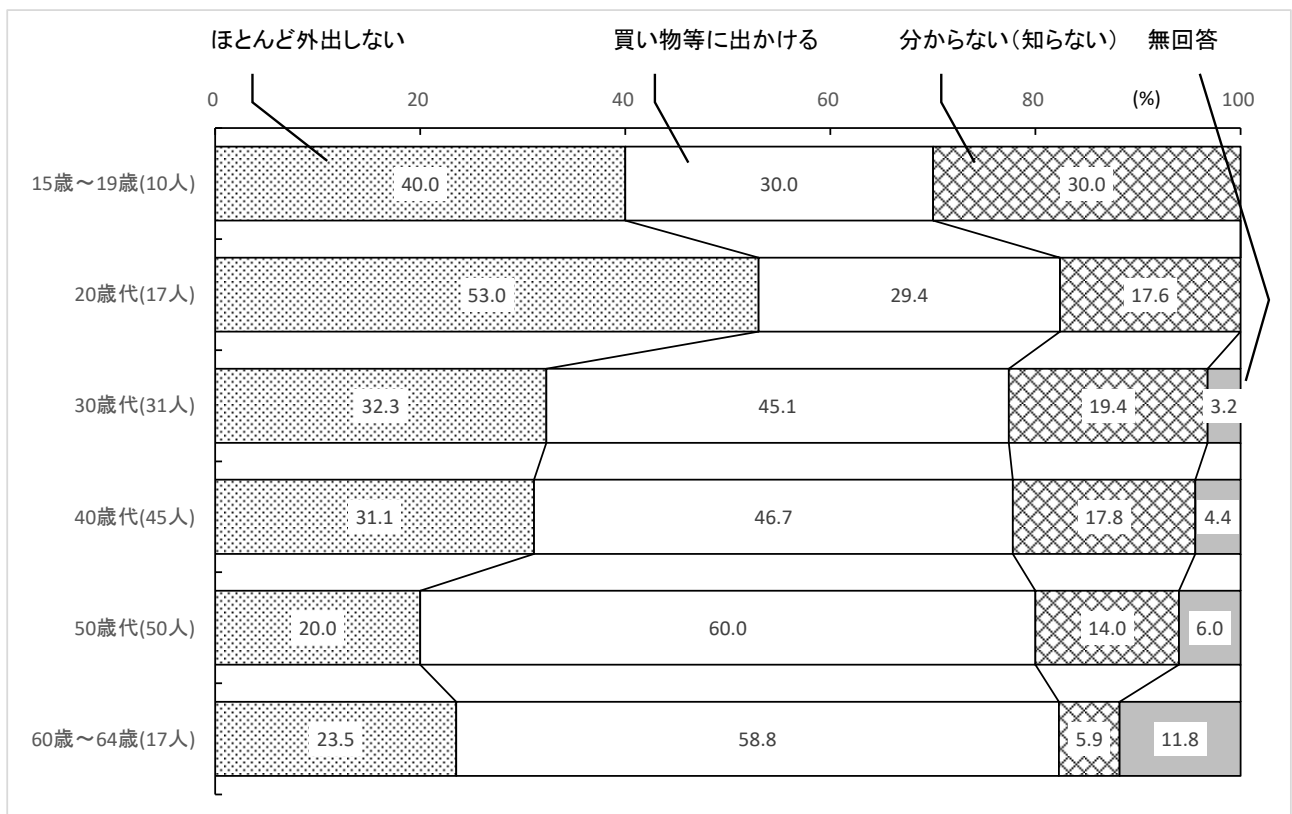
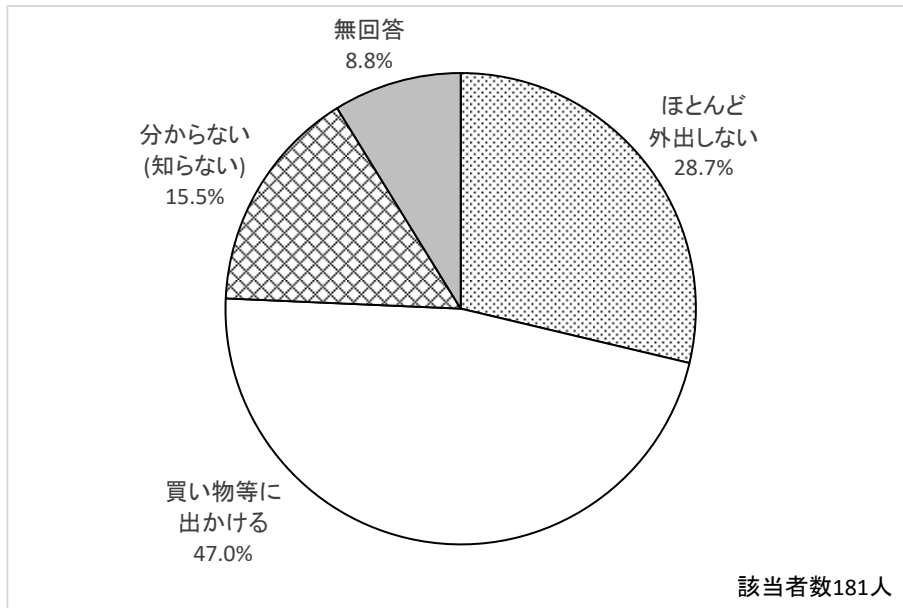
ひきこもり等の状態にある人の男女比はすべての年代において男性が高い傾向にあり、特に 40 歳代では男性 82.2%、女性 15.6%と男性が女性を大きく上回っている。

3 該当する方の家族構成



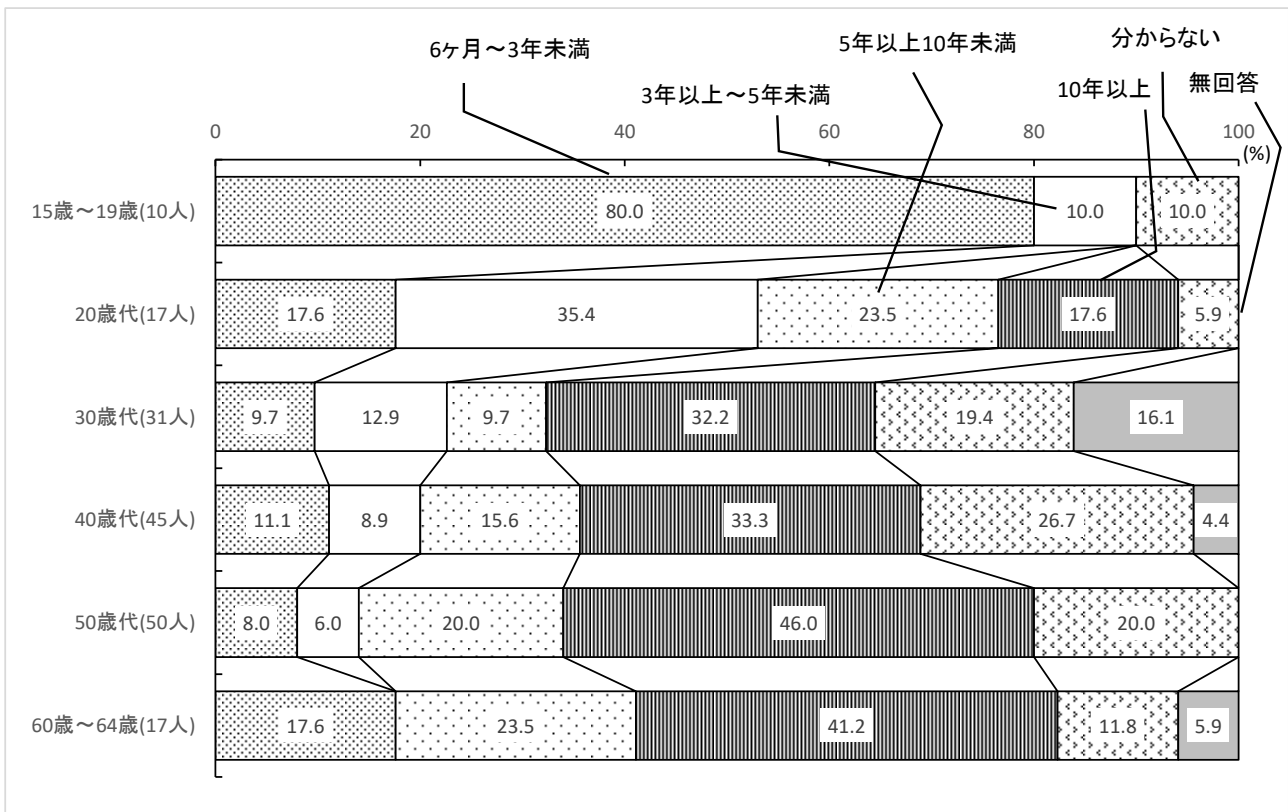
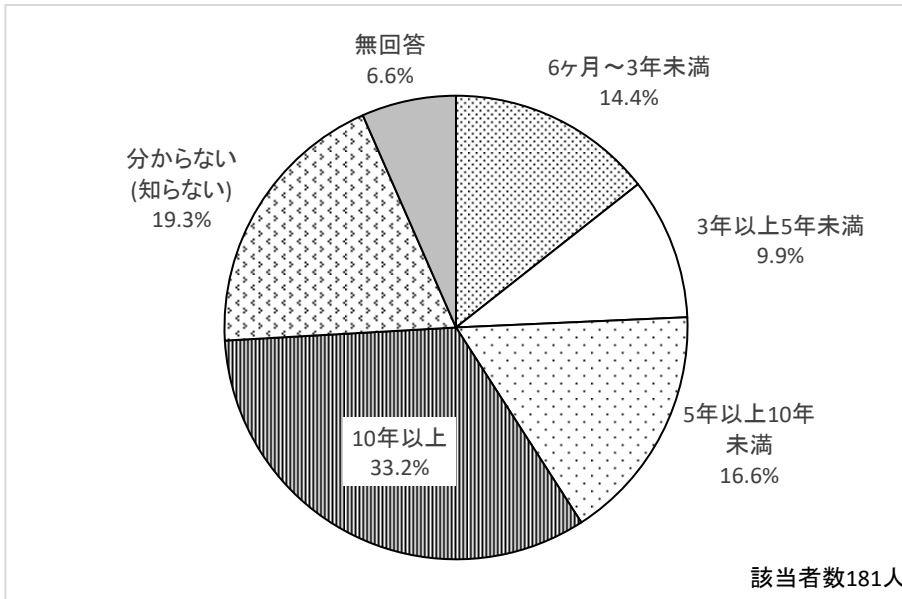
家族構成については、15歳～19歳から50歳代までは「母親」の割合が最も多かった。また40歳代から「家族なし」の割合が増え、60歳～64歳では58.9%と最も多くなっている。

4 該当する方の状況



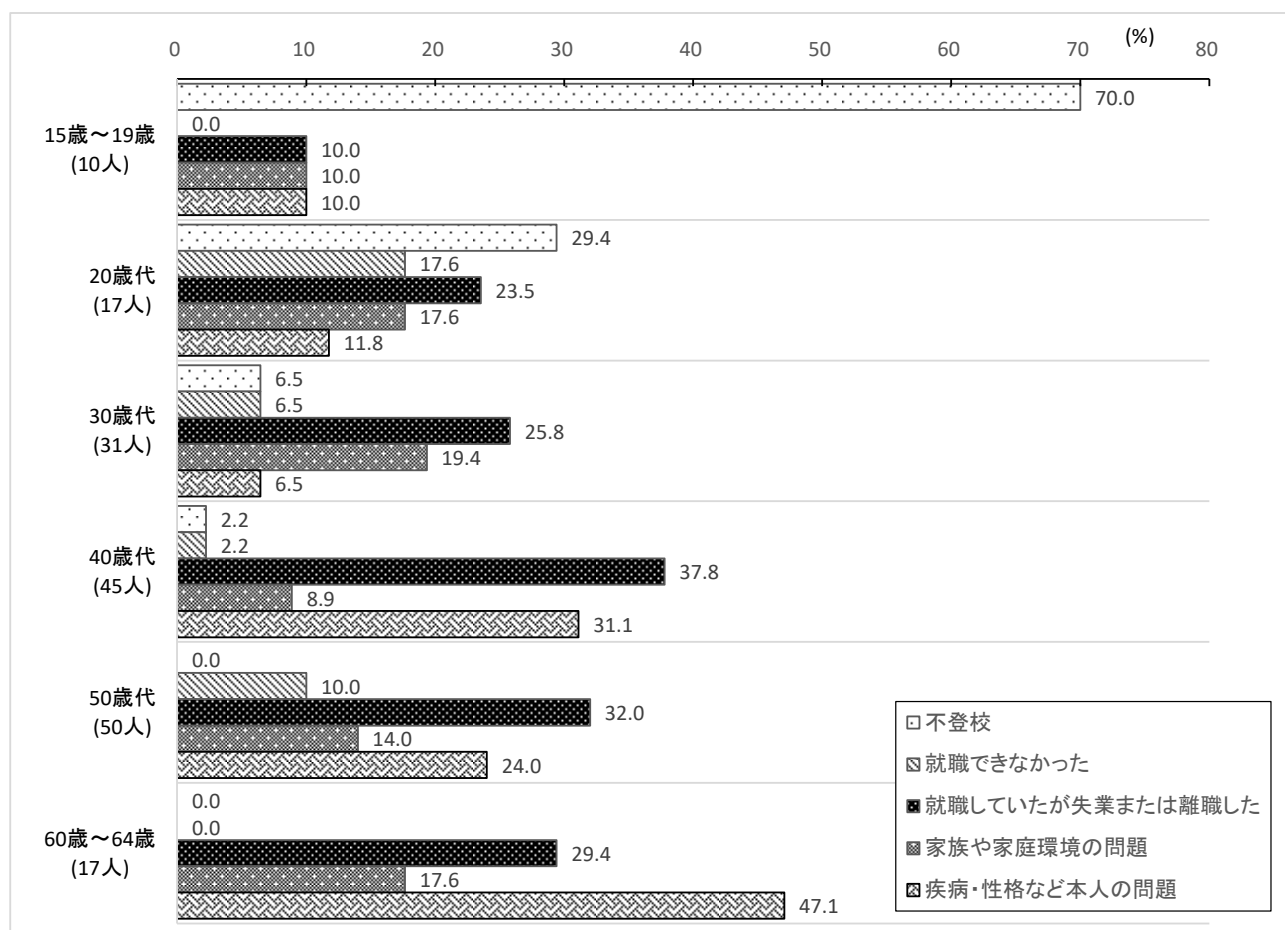
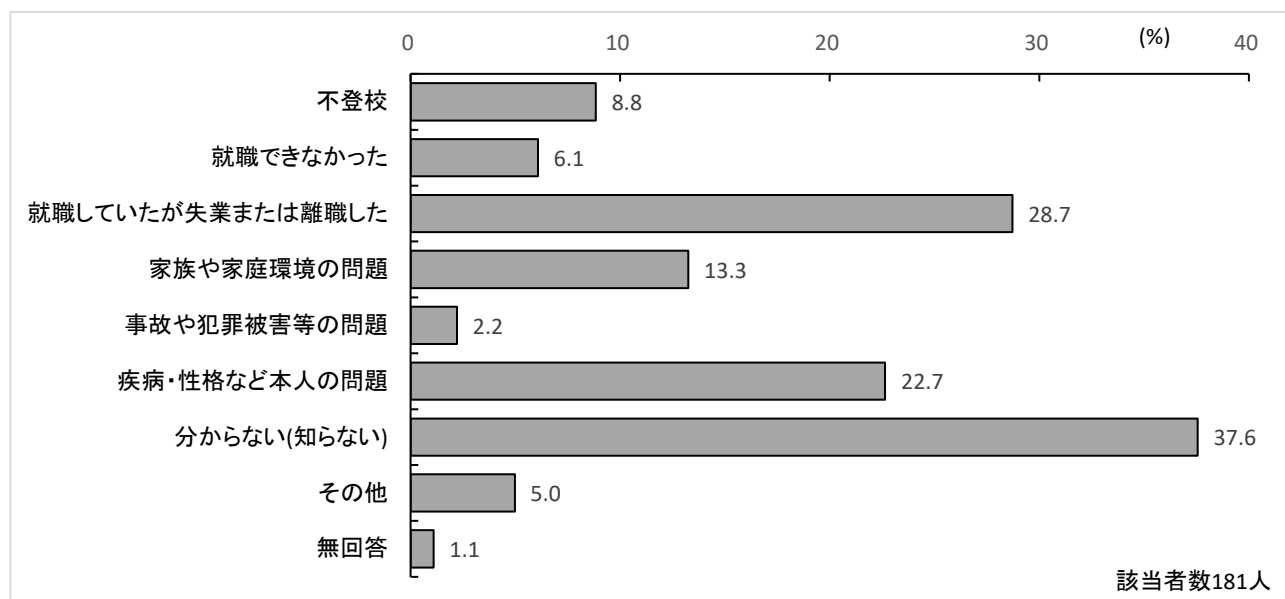
15歳～19歳および20歳代では「ほとんど外出しない」が一番多くなっている。その他の年代は「買い物等に出かける」が一番多くなっている。

5 ひきこもりの状態にある期間



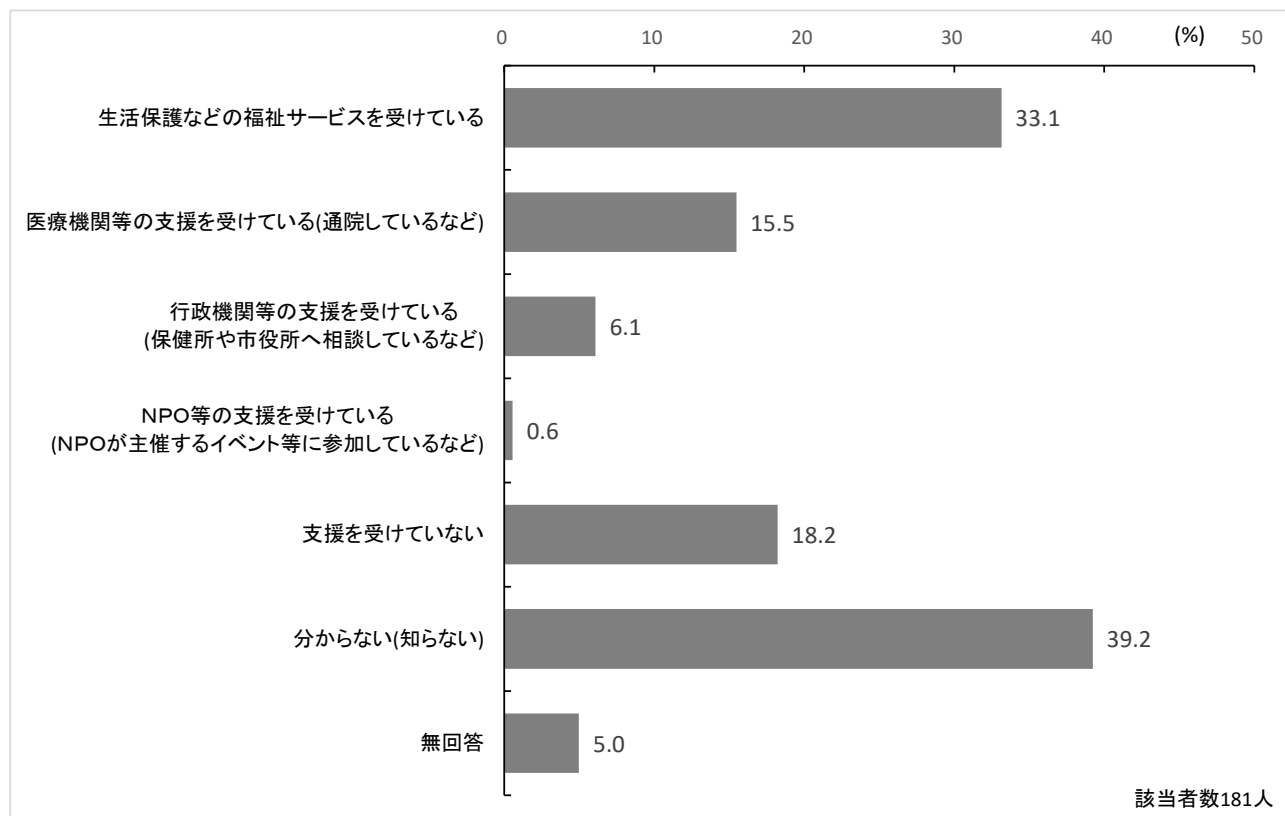
ひきこもりの状態にある期間は全体で10年以上が最も多い。年齢別に見ると30歳代以降で10年以上が多くなっており、高齢になるにつれて年数が増加傾向となっている。

6 ひきこもり等に至った経緯



ひきこもり等に至った経緯は、「分からない」を除いて「就職していたが失業または離職した」が28.7%、「疾病・性格など本人の問題」が22.7%となっている。年齢別に見ると15歳～19歳は「不登校」が一番多くなっており、30歳代～50歳代が「就職していたが失業または離職した」が一番多い。60歳～64歳になると「疾病・性格など本人の問題」が一番多くなる。

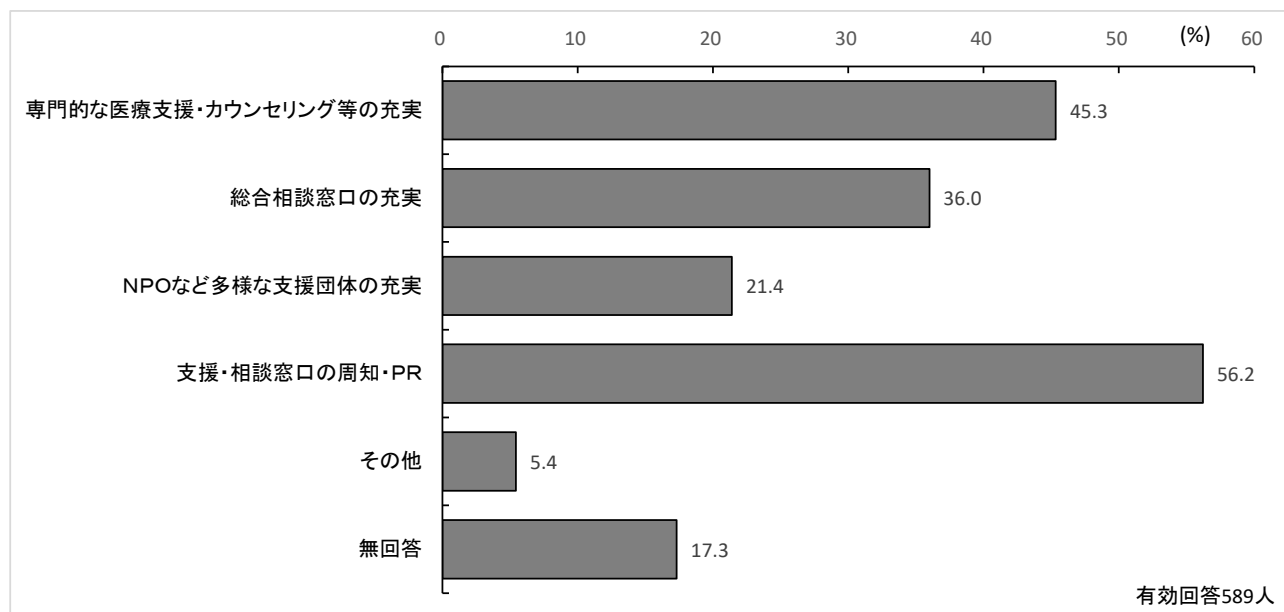
7 その方への支援状況



支援状況については、「生活保護などの福祉サービスを受けている」が33.1%で「分からない」を除いて一番多い。「支援を受けていない」は18.2%となっている。

(2) ひきこもり等の方への支援策

問4 受け持ちの地域のことにかかわらず、ひきこもり等の方への支援策として、必要と思われることをお答えください。



支援策として必要と思われることは、「支援・相談窓口の周知・PR」が56.2%で一番多い。対応施設等の充実も重要ではあるが、まず知ってもらうことが重要であると認識している人が多いと考えられる。自由回答からは、民生委員・児童委員としてひきこもり問題に関わっていくことの困難さを訴える回答も多く見られた。

自由回答

- ・ひきこもり者による親子の亀裂が社会問題になっているが個人情報保護がある旨、なかなか家庭内の状況が見えない。家族が相談機関に足を向けられるよう、周知・PRが必要と思われる。
- ・自分自身がひきこもりの相談窓口を知らなかったし専門家による支援が必要だと思うので、ひきこもり者数が増えている事は知っているが結局のところ家族や本人が困っている。また、どうしたいか具体的な思いが無ければ解決に至らないと思う。
- ・家族が隠したがるので相談出来る窓口を周知・PRして欲しい。現状ではほとんどが知らないのでは。

(3) その他、ご意見やお気づきの点について

問5 その他、ご意見やお気づきの点について、自由にお書きください

主な回答について以下に抜粋した。

- ・家庭内の事でなかなか実情が表面化してないと思いますが、相談窓口では実情把握しかできないような気がしますので具体的に動いてくれそうなNPOなどの支援が有効かと思います。
- ・ひきこもりになっている人は自分で相談などできない、家族に支援や相談窓口がある事、気軽に相談出来る事を誰でも出入りする場所や、スーパー等の掲示板を利用してPRする事が良いのではないかな。
- ・「ひきこもりの家族が居る」という実態は同居している家族が誰かに相談等しなければ知る事ができないのではないかなと思う。どうすると気付いてあげられるか、力になってあげられるのか良い考えが全く浮かびません。家族にひきこもりが居るという事は本当に大変であろうと思います。
- ・人生を生きるには時間が掛かると思います、時間を止めてゆっくりとひきこもりもありと思います。そしてゆっくり話せるようになったらとにかく話を聞いてみる事。ああしなさい、こうしなさいではなく受け入れる事が大切だと思います。
- ・行政に相談に行かれた家族の方には行政の方から民生委員を紹介して頂くという形もあればこちらも動きやすいと思います。ご本人に直接の支援はできなくても家族の方への声かけなどはできます。そこから繋がっていく事もあるのではと思います。
- ・民生委員、町内会、消防団、地域包括支援センター、訪問介護ステーション、訪問リハビリ等を統括するシステム構築。
- ・学校等にも専門の相談員が常駐していれば目配り気配りができるのではないかな。
- ・ひきこもっている人をまず、部屋から出すにはどうしたら良いかな。本人の話を十分に聞いてから、ひきこもり状態から脱却させ、次に医療なりカウンセリングなり生活支援なりの一連の方向性を位置づけて取組ませていく体制が必要だと思う。専門的知識を持った人が沢山必要となるのではないかな。また実際に行動するメンバーも必要だ。